



高柳重信に関する資料一覧

〒335-0021 戸田市大字新曽1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

俳人高柳重信は、昭和21年(1946)から約15年間、当時の戸田町で暮らし、町の俳句会で指導をしたり、戸田市俳句連盟の顧問を務めたりして、戸田市との関わりを長く持ち続けた人物です。

今回は、戸田市立図書館で所蔵している資料の中から、高柳重信について調べることができるものを紹介します。

目次	
1 百科事典、人名事(辞)典	4 人物論、作品論
2 文学事(辞)典	5 戸田市及び埼玉県関係資料
3 詩歌、俳句事(辞)典	6 著作

1 百科事典、人名事(辞)典

●ここでは、人物について調べるとき、基本的な情報を得ることができる百科事典及び人名事(辞)典を紹介します。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『日本大百科全書』 14	小学館	1987	R031	本館2階・参考資料室
p.668 「高柳重信」 略歴が載っています。				
『現代日本執筆者 大事典』第3巻	日外アソシエーツ	1978	R281.0	本館・書庫
p.177-178 「高柳重信」 作品の掲載雑誌及び図書、人物研究及び年譜を掲載している出版物の一覧等を紹介しています。				
『現代日本執筆者 大事典 77/82』第 3巻	日外アソシエーツ	1984	R281.0	本館・書庫
p.175 「高柳重信」 作品の掲載雑誌及び図書、人物研究及び年譜を掲載している出版物の一覧等を紹介しています。				
『現代日本人物事 典』	旺文社	1986	R280.3	本館・書庫
p.611 「高柳重信」 略歴が載っています。				

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『現代人名情報事典』	平凡社	1987	R280.3	本館・書庫
	p.584「高柳重信」 略歴が載っています。			
『<現代日本>朝日人物事典』	朝日新聞社	1990	R281.0	本館2階・参考資料室
	p.951「高柳重信」 略歴が載っています。			
『新潮日本人名辞典』	新潮社	1991	R281.0	本館2階・参考資料室
	p.1045「たかやなぎしげのぶ」高柳重信 略歴が載っています。			
『講談社日本人名大辞典』	講談社	2001	R281.0	本館2階・参考資料室
	p.1121「たかやなぎしげのぶ」高柳重信 略歴が載っています。			
『人物レファレンス事典』 文芸篇	日外アソシエーツ	2010	R281.0	本館2階・参考資料室
	p.507「高柳重信」 略歴が載っています。高柳重信について記述されている事典類を紹介しています。			

2 文学事(辞)典

●ここでは、俳人である高柳重信について調べるとき、基本的な情報を得ることができる文学事(辞)典を紹介します。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『現代日本文学大事典』	明治書院	1966	R910.2	本館2階・参考資料室
	p.659「高柳重信」 略歴が載っています。			
『日本近代文学大事典』 第2巻	講談社	1977	R910.2	本館2階・参考資料室
	p.299「高柳重信」 略歴が載っています。			
『日本文学史辞典』 近現代編	角川書店	1987	R910.2	本館2階・参考資料室
	p.594-595「高柳重信」 略歴が載っています。			
『新潮日本文学辞典』	新潮社	1988	R910.3	本館2階・参考資料室
	p.773「高柳重信」 略歴が載っています。			
『日本現代文学大事典』 人名・事項篇	明治書院	1994	R910.2	本館2階・参考資料室
	p.201「高柳重信」 略歴が載っています。			

3 詩歌、俳句事(辞)典

●俳人である高柳重信について調べるとき、略歴以外にも作品について知ることができる詩歌及び俳句に関する事(辞)典を紹介します。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『詩歌人名事典』	日外アソシエーツ	2002	R911.0	本館 2 階・参考資料室
	p.420「高柳重信」 略歴が載っています。			
『詩歌作者事典』	鼎書房	2011	R911.0	本館 2 階・参考資料室
	p.237-238「高柳重信 (たかやなぎじゅうしん)」 略歴が載っています。			
『戦後詩歌俳句人名事典』	日外アソシエーツ	2015	R911.0	本館 2 階・参考資料室
	p.306「高柳重信 たかやなぎじゅうしん」 略歴が載っています。			
『近代俳句大観』	明治書院	1977	T911.3	本館 2 階・郷土特集棚
	p.465-466「高柳重信」、p.622「高柳重信」 作品 5 句に解説が添えられています。巻末には略歴が載っています。			
『俳句辞典』 近代	桜楓社	1977	R911.3	本館 2 階・参考資料室
	p.343-344「高柳重信」 略歴が載っています。			
『現代俳句大辞典』	明治書院	1980	R911.3	本館 2 階・参考資料室
	p.301「高柳重信」 略歴が載っています。代表句の紹介及び句集 2 冊の解説があります。			
『俳句辞典』 鑑賞	桜楓社	1981	R911.3	本館 2 階・参考資料室
	p.419「高柳重信」 略歴が載っています。作品 2 句に解説が添えられています。			
『現代俳句辞典』	富士見書房	1988	R911.3	本館 2 階・参考資料室
	p.209-210「高柳重信」 略歴が載っています。			
『現代俳句ハンドブック』	雄山閣出版	1995	R911.3	本館 2 階・参考資料室
	p.56「高柳重信」 略歴が載っています。作品 1 句に解説が添えられています。			
『新編俳句の解釈と鑑賞事典』	笠間書院	2000	R911.3	本館 2 階・参考資料室
	p.494-496「高柳重信」 略歴が載っています。作品 2 句に解説が添えられています。			
『名句鑑賞辞典』	角川書店	2000	R911.3	本館 2 階・参考資料室
	p.221-223「高柳重信」 略歴が載っています。作品 5 句に解説が添えられています。			
『俳文学大辞典』	角川学芸出版	2008	R911.3	本館 2 階・参考資料室
	p.532「高柳重信」 略歴が載っています。			

4 人物論、作品論

●高柳重信に関する人物論、又は作品論を知りたい場合は、分類 911.3[俳句]及び分類 911.36[近代の俳句]の資料を探すとよいでしょう。ここでは当館で所蔵している図書の一部を紹介します。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『昭和俳壇史』	明治書院	1979	911.36	本館 1 階・開架閲覧室
	p. 393-394 「『薔薇』創刊」 高柳重信が編集を務めた雑誌『薔薇』が創刊したという記述があります。			
『鑑賞現代俳句全集』第 11 巻	立風書房	1981	911.36	本館・書庫
	p.49-71 「高柳重信（鑑賞＝岩片仁次）」 略歴、作品論及び人物論が載っています。 同全集の付録「月報」には、毎回、編集委員を務めた高柳重信、飯田龍太、大岡信及び吉岡実の座談会が掲載されています。この座談会は、『高柳重信全集Ⅲ』にも収録されています。			
『現代俳句大系』第 14 巻	角川書店	1981	911.36	本館 1 階・開架閲覧室
	p.393-419 「青彌撒 高柳重信」、p.587-589 三橋敏雄 「『青彌撒』高柳重信」 句集『青彌撒』を掲載し、巻末に解説を添えています。			
『高柳重信の世界』	梅里書房	1991	T911.3	本館 2 階・郷土特集棚
	109p 高柳重信の人物像及び作品論を写真中心に紹介したものです。中村苑子 <small>そのこ</small> が書いた評伝及び長女高柳露子 <small>ひるこ</small> が書いた「父と私」という寄稿文も収録されています。 以下のページに戸田市に関する記述があります。 p.73 「戸田の自宅書斎にて [昭和 24 年]」 夏石番矢 <small>なついしばんや</small> 「つねに生誕するロゴス」内に上記タイトルの写真が掲載されています。 p. 106-107 「高柳重信略年譜」内 「昭和 21 年（1946）23 歳」の項に「埼玉県戸田町下戸田（現戸田市）に移り、」という記述があります。「昭和 34 年（1959）36 歳」の項には伊勢湾台風の襲来で戸田の自宅の屋根が吹き飛ばす被害があったことが書かれています。			
『高柳重信』	蝸牛社	1994	T911.3	本館 2 階・郷土特集棚
	168p 高柳重信の代表作から 300 句を厳選し、一句ごとに夏石番矢による解説を加えた句集です。巻末に略年譜が付いています。戸田市に関する記述はありません。			
『集成・昭和の俳句』	小学館	1995	911.36	本館 1 階・開架閲覧室
	p. 398-406 「高柳重信 選出・中村苑子」 略歴が載っています。8 句集から秀句を紹介したものです。			
『現代の俳人 101』	新書館	2004	911.36	本館 1 階・開架閲覧室
	p. 150-151 「高柳重信」 略歴が載っています。代表句 3 句の紹介及び解説が載っています。			

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『現代俳句を熱くした高柳重信との青春』	七月堂	2007	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	<p>236p 高柳重信と親交のあった著者丸山正義が、高柳との思い出を綴りながら人物論及び作品論を展開して作品です。 以下のページに戸田市に関する記述があります。 巻頭写真 戸田橋吟行の際に撮った写真が掲載されています。 p.12-13「青春を探偵する」内、p.30-31「袂の団栗」内 戸田市立郷土博物館で開催された「高柳重信展」について触れています。 p.69-71「沈丁花<<高柳重信との習作時代>>」内 高柳重信の長女及び実妹に会いに戸田市へ赴いたときの話が載っています。 p.109-110「天狗句会<<高柳重信との習作時代>>」 巻頭の写真について触れています。 p.225「高柳と戦後」内 高柳重信の手紙を紹介している箇所には戸田町が登場します。</p>			
『高柳重信読本』	角川学芸出版	2009	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	<p>332p 高柳重信の作品を抜粋し、俳論、作家論等を掲載したものです。 以下のページに戸田市に関する記述があります。 巻頭写真 戸田町で撮影した3枚の写真が掲載されています。 p.155-156「戸田町の正月」 雑誌『笛』（昭和34年1月）に執筆した作品を掲載しています。戸田町での正月について語ったものです。 p.161-163「踏切りにて」内 『俳句評論』（昭和40年6月）に執筆した作品を掲載しています。戸田町に住んでいた頃に体験した洪水について触れています。 p.183-184「忘年会」内 「読売新聞」昭和52年12月7日に掲載されたものです。戦争で家が焼かれた後、戸田町で一軒家を購入した経緯が書かれています。 p.200「模糊たる来し方」 『俳句研究』（昭和57年3月）に掲載されたものです。戸田町に住んでいた頃の自分は本棚の整理を1年に1回していたというエピソードが紹介されています。 巻末年譜 p.321「昭和21年（1964）23歳」 戸田町に移転したことが載っています。 p.323「昭和29年（1954）31歳」 居住地の戸田俳句会を指導したことが分かります。 p.327「昭和45年（1970）47歳」 戸田市俳句連盟が創立し、顧問となったことが分かります。</p>			
『昭和俳句の検証』	笠間書院	2015	911.36	本館1階・開架閲覧室
	<p>p.48-49「太平洋戦時下の俳句」内、p.62-63「二、三十代作家の成果」内、 p.96「三十代作家を中心とした作品の成果」内、p.99-101「金子兜太と高柳重信の暗喩方法論と暗喩作品の対比」内、p.121「俳句総合誌の対照的な企画」内、 p.124「いわゆる戦後派俳人たちの円熟」内 上記ページ内で高柳重信に触れています。</p>			

5 戸田市及び埼玉県関係資料

●戸田市にゆかりのある人物について調べるときは、戸田市及び埼玉県関係資料も確認しましょう。ここでは、高柳重信について触れている戸田市及び埼玉県関係資料を紹介します。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『とだしば』	戸田市俳句連盟	1972	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	序文 高柳重信「一昔二昔」 戸田俳句連盟の合同詩集「とだしば」創刊に寄せた高柳重信の序文です。戸田町での俳句活動の思い出を綴っています。			
『とだしば』第3号 創刊号～第10号合本 内	戸田市俳句連盟	1972	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	p.1-4「高柳重信講演概要」 戸田俳句連盟文化祭俳句大会での講演の概要が掲載されています。 p.17「選者特選 高柳重信先生」 俳句大会で高柳重信が選んだ特選の句を紹介しています。			
『とだしば』第11号 第11号～第20号合本 内	戸田市俳句連盟	1976	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	p.19-20 内田孝三「戸田俳句研究会結成当時の伊東さんをしのぶ」内 戸田俳句研究会結成時のことに触れた箇所が高柳重信の名前が登場します。 p.23-24 奥山雷火「晴敏さんの思い出あれこれ」 戸田俳句会の伊東晴敏への追想文の中で、生前の彼が語った言葉として「重信先生の最初の弟子は戸田の我々ではなかったろうか」と綴っています。			
『とだしば』第14号 第11号～第20号合本 内	戸田市俳句連盟	1980	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	p.8「過ぎ去つた日々」 高柳重信の寄稿文が掲載されています。戸田町での思い出を綴ったものです。 p.60「あとがき」 高柳重信に特別寄稿してもらったことへの感謝の辞が述べられています。			
『とだしば』第16号 第11号～第20号合本 内	戸田市俳句連盟	1983	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	p.5 高松 ^{ごろう} 涙浪「高柳重信先生を悼む」 高柳重信が急逝したことに対する追想文です。			
『とだしば』第18号 第11号～第20号合本 内	戸田市俳句連盟	1986	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	p.13 高松さと栄「思ひ出」 高柳重信が自宅に来たときの思い出を語っています。			
『とだしば』第21号 第21号～第30号合本 内	戸田市俳句連盟	1989	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	p.16 奥山雷火「高柳重信・山川 ^{せみお} 蟬夫の七回忌に思う」 山川蟬夫は高柳重信の別号です。山川蟬夫時代の俳句について語っています。			
『とだしば』第22号 第21号～第30号合本 内	戸田市俳句連盟	1990	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	p.1 原田烏江「市俳連創立二十周年を迎えて」 戸田俳句連盟会長の挨拶文です。会の歴史を振り返る中で、顧問だった高柳重信の名前が登場します。			

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田の文学探訪』 近世近代編	戸田市	1992	T910.2	本館2階・郷土特集棚
	p.84-85「高柳重信(俳人)Ⅰ」、p.86-87「高柳重信(俳人)Ⅱ」 句集『前略十年』収録の戸田橋を詠んだ句2句及び『とだしば』第14号に掲載された「過ぎ去つた日々」の一部が紹介されています。解説では、約15年、戸田町に居住したこと、戸田市俳句連盟顧問であったこと、戸田市に触れた作品のタイトル等が紹介されています。			
『とだしば』第33号	戸田市俳句連盟	2001	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	p.18 丸山俊二「 「蓬髪」高柳^{けいげんし}恵幻子のこと 」 高柳恵幻子は、高柳重信の学生時代の俳号です。戦後直ぐに出会った彼の句集に衝撃を受け、発行元である戸田町の自宅を訪ねたというエピソードが綴られています。 巻頭には昭和48年(1973)に開催された戸田市文化祭俳句大会の集合写真も掲載されています。			
『高柳重信展』 第17回特別展	戸田市立郷土博物館	2001	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	57p 平成13年(2001)に戸田市立郷土博物館で開催された「高柳重信展」の展示図録です。高柳重信と戸田市の関わりを様々な角度から紹介しています。 特別展で展示された資料の写真掲載が中心ですが、高柳重信の長女高柳露子、彼の父が経営していた火曜印刷の元見習い職工加藤元重、戸田俳句会メンバーの内田孝三他、高柳重信と関わりがあった人物からの寄稿文も掲載しています。 巻末には年譜があります。			
『埼玉の文学』	さきたま出版会	1979	T910.2	本館2階・郷土資料架
	p.208「 古代の藁火と前衛俳句の拠点 」内 高柳重信が昭和21年(1946)から昭和34年(1959)頃まで戸田町に居住していたと書かれています。			
『埼玉人物事典』	埼玉県	1998	T281.3	本館2階・郷土資料架
	p.492-493「 たかやなぎ しげのぶ 高柳重信 」 昭和21年(1946)から昭和37年(1962)まで戸田町に在住していたと書かれています。また、戸田町に関する作品として、句集『前略十年』、エッセイ「露子誕生」(『俳句世紀』)、「戸田町の正月」(『笛』)、「模糊たる来し方」(『俳句研究』)等が挙げられています。			
『埼玉現代文学事典』	埼玉県高等学校国語科教育研究会	1999	T910.3	本館2階・郷土資料架
	p.179「 高柳重信 」 昭和21年(1946)から昭和37年(1962)まで戸田町に在住していたと書かれています。また、戸田橋を詠んだ句が『前略十年』に2句収められていること、戸田町時代のことに触れたエッセイに「露子誕生」(『俳句世紀』1950)、「戸田町の正月」(『笛』1959)、「宇都宮雑記」(『俳句評論』1965)、「模糊たる来し方」(『俳句研究』1982)等があることが記述されています。			

6 著作

●高柳重信の作品は、雑誌への寄稿も含めると数多くあります。[国立国会図書館サーチ](#)※等を活用すれば、句集及び掲載雑誌を確認することができますが、ここでは、高柳重信の作品の内、戸田市立図書館で所蔵している図書(一部除く)を紹介します。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『現代俳句の軌跡』	永田書房	1978	911.36	本館1階・とだしの本棚
	371p 過去、雑誌及び書籍に発表された自身の作品の中から、振興俳句運動に関するものを選び編集したものです。戸田市に関する記述はありません。			
『わが愛する俳人』 第1集	有斐閣	1978	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	p.189-219「 ^{とみさわ か き お} 富沢赤黄男」 高柳重信が執筆しています。戸田市に関する記述はありません。			
『近代俳人』	桜楓社	1980	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	p.263-273「富沢赤黄男」 高柳重信が執筆しています。戸田市に関する記述はありません。			
『高柳重信全集』 1	立風書房	1985	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	409p 高柳重信が発表した俳句が収録されています。 以下のページに戸田市に関する記述があります。 p.27、p.41、p.43「前略十年」内 「前略十年」は、高柳の第一句集です。戸田橋を詠んだ俳句2句が収録されています。挿入文には、「この頃から埼玉県戸田町に住むことになった。」という記述があります。			
『高柳重信全集』 2	立風書房	1985	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	369p 高柳重信が発表した作家論、俳句鑑賞及びエッセイが収録されています。 以下のページに戸田市に関する記述があります。 p.332「模糊たる来し方」内 「俳句研究」(昭和57年3月)に掲載されたものです。戸田町に住んでいた頃の自分は本棚の整理を1年に1回していたというエピソードが紹介されています。 p.346「宇都宮雑記」内 戸田町に住んでいた頃に体験した洪水の日の夜のことが紹介されています。			
『高柳重信全集』 3	立風書房	1985	T911.3	本館2階・郷土特集棚
	412p 高柳重信が発表した俳句論、時評、詩歌論、講演及び座談会が収録されています。巻末には、年譜及び著作目録があります。 本編に戸田市に関する記述はありませんが、付録の「高柳重信全集Ⅲ・栞」に以下の記述があります。 p.2 吉岡実「月の雁」内 句集『前略十年』に収録されている「戸田橋へ乾反葉走る切通」の句が紹介されています。 p.4 ^{いくや} 加藤郁乎「重信一夕話」内 昭和34年頃、高柳重信を訪ねて戸田町へ赴いたときのエピソードを紹介しています。			

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『高柳重信』	花神社	1993	T911.3	本館 2 階・郷土特集棚
	123p 高柳重信の俳句集です。 以下のページに戸田市に関する記述があります。 p.105-106「高柳重信年譜」内 昭和 21 年（1946）に戸田町に移転したこと及び昭和 34 年（1959）に伊勢湾台風で戸田町の自宅が被害を受けたことが記述されています。			
『夜想曲』	ふらんす堂	1990	T911.3	本館 2 階・郷土特集棚
	77p 俳人中村苑子が選出した高柳重信の俳句選集です。戸田市に関する記述はありません。			
『俳句の海で』	ワイズ出版	1995	911.36	本館 1 階・とだしの本棚
	334p 高柳重信が編集委員を務めた『俳句研究』の「編集後記」を集め収録したものです。戸田市に関する記述はありません。			
『高柳重信全句集』	沖積舎	2002	T911.3	本館 2 階・郷土特集棚
	517p 高柳重信が生前に発行した俳句集です。 以下のページに戸田市に関する記述があります。 p.39、p.55、p.59「前略十年」内 戸田橋を詠んだ俳句 2 句が収録されています。挿入文には、「この頃から埼玉県戸田町に住むことになった。」という記述があります。			

※「国立国会図書館サーチ」（アドレス <http://iss.ndl.go.jp/>）は、国立国会図書館が提供している検索サービスです。国立国会図書館が所蔵する資料、都道府県立図書館、政令指定都市の市立図書館の蔵書、国立国会図書館や他の機関が収録している各種のデジタル情報等を探すことができます。

高柳重信の著作物を検索する方法

検索窓にキーワード「高柳重信」、別号の「高柳^{けいげんし}憲^{せみお}幻^{せみお}子」及び「山川^{せみお}蟬^{せみお}夫」と入力すれば、彼自身の著作物は勿論、彼について書かれた雑誌論文記事等の検索が可能です。

高柳重信の著作物を閲覧する方法

国立国会図書館所蔵の資料については、一定の条件を満たしていれば戸田市立図書館本館で閲覧することが可能です（要申込み、貸出券が必要です。）。詳細は図書館までお問合せください。また、「国立国会図書館／図書館送信参加館内公開」資料は、戸田市立図書館本館 2 階カウンターで閲覧することができます（要申込み、貸出券が必要です。）。

～資料の紹介について～

- 紹介した資料は、当館が把握しているすべての資料ではありません。今回は戸田市立図書館で所蔵している資料に限りしました。
- 戸田市立図書館内で複本資料がある場合は、本館 2 階の郷土資料を優先して紹介しました。郷土資料は貸出しできません。貸出しできる資料があるか、分館及び分室で所蔵している資料があるか等複本の確認が必要な場合は、OPACで検索してください。